

令和4年9月14日時点

課題／目的

2050年カーボンニュートラルの達成に向け、IEAによると世界で年間約450兆円投資が必要であり、民間資金の大量導入手段として、グリーンファイナンス（以下「GF」という。）は有効なツールであるが、我が国においては更なる市場の拡大が必要。加えて環境改善効果や野心性の観点での質の担保も重要。

GFは、フレームワークの策定、評価、検証等が追加的に必要となるが、ノウハウ不足や追加コスト負担の問題により、取り組みが進まないことが課題であり、ノウハウの提供及びコスト低減によりGF市場拡大することを目的とする。

- ・我が国におけるGFによる資金調達額は増加基調にはあるものの、海外と比較し市場が未成熟である。また、2050年カーボンニュートラル達成に向け民間資金を大量に導入する必要がある中でも、十分とはいえない。
- ・我が国におけるR3年（2021年）のグリーンファイナンスによる調達額は、約3.5兆円である。

インパクト

- ・民間資金を活用した、効率的な脱炭素化事業の促進
- ・GF市場の拡大を通じて、我が国におけるサステナビリティ経営の高度化

- ・CO2削減効果
- ・GF市場規模

インプット

- 【要求額】 R5年度：4億円
- 【補助率】 1件当たり上限20百万円として、SLL、SLBは実費の8/10、GB、SusB、GLは4/10、コンサルは5/10
- 【補助先（間接）】 外部レビュアー、コンサル等
- 【委託先】 民間団体（コンサル等）

アクティビティ

- 【プラットフォーム運営事業】
  - ・GFの調達支援を行う者の登録公表制度を整備するとともに、発行促進のためのセミナー開催、解説文書の作成を行い、ノウハウを資金調達支援者、企業及び自治体間で共有する。
- 【グリーンファイナンス発行支援事業】
  - ・R4年度に改訂・策定したガイドラインを踏まえ、これらに適合しているGFに対し、コンサルティング、外部レビュー等の費用を補助する。

アウトプット

- 【プラットフォーム運営事業】
  - ・プラットフォーム登録機関をR5年度において30件を目指す。
  - ・資金調達者へGFに関するノウハウを提供するために勉強会を年4回開催
- 【グリーンファイナンス発行支援事業】
  - ・R5年度にて150件交付決定（SLL・SLB：60件、GB・SusB・GL：70件、コンサル：20件）

アウトカム

- 【短期/中期】
  - ・GF取組体制整備を通じて大量の民間資金がグリーンプロジェクトに導入され、GF市場の健全な拡大。
  - ・調達主体、金融機関の多様化。
  - ・GFを通じた資金調達の定着。
- 【長期】
  - ・GFのメリット（需要伸張、投資家多様化による資金調達基盤安定化、株価上昇、ダウンサイドリスク低減等）の実証。
  - ・GFによる資金調達が自律的に行われるようになる市場環境が整備される。
  - ・2050年カーボンニュートラル達成に向けたグリーンプロジェクトへの十分な資金導入が図られる。

○グリーンボンド等促進体制整備支援事業予算

- ・平成30年度～令和3年度：5億円
- ・令和4年度：4億円

・我が国におけるGFの拡大は見受けられるが、世界的な市場発展に比して十分ではない。調達者のノウハウ不足や低コストへの支援を実施することでGF市場の拡大に寄与し、2050年カーボンニュートラル達成に向けた市場形成するのに有用と考える。

- ・登録調達支援者数
- ・勉強会開催回数
- ・補助金を活用したGF件数

- ・間接補助事業者からの調達支援状況報告書（調達の動機・今後の展望等）
- ・国内GFによる累積調達額